

財団法人大阪デザインセンター 平成25年度 事業報告

2014. 6. 25

政府の景気判断としては、

「平成25年度は、着実な持ち直しから、緩やかな回復基調が現在まで続いている。

輸出が持ち直し、各種政策の効果が発現するなかで、家計所得や投資の増加傾向が続き、景気回復の動きが確かなものとなることが期待される。ただし、海外景気の下振れが、引き続き我が国の景気を下押しするリスクとなっているとともに、当面、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により弱さが残る。」

とされているが、中小零細企業には景気回復の波及効果は及んでおらず、デザイン界においてもまだ打開の兆しが見えない状況が続いている。

当財団は、平成25年4月26日付で一般財団法人化の申請を行ったが、認可がずれ込み、平成26年4月1日付で、移行を完了した。

平成25年度事業計画、予算においては、移行を前提とした計画を立てており、実体として、移行を先取りした形で、資金手当て、事業実施を行った。

継続事業の中では、従前、大阪市から受託していた「デザインビジネスプロモーションセンターの運営」事業がさらに見直しを強められ、委託廃止となったので、当財団の独自事業として継続実施しており、大きな財政負担となっている。

中堅デザイナーのソリューション能力向上を目指す「デザインビジネス塾 [co-design]」、デザインを学ぶ学生のための「デザイン就業支援事業」は応募者も多く、十分成果があった。

企業の管理職クラスがデザインを経営資源として活用できる能力を身につけて貰う、「デザインマネジメント研究会」は、応募が低調な状態が続いていたが、コンテンツビジネス事業の訓練生9名を受講させて、実質的には14名で実施した。

シンポジウムについては、一般市民・サラリーマン向けに、日清食品とサントリーのパッケージデザインを取り上げ、「デザインの価値」を訴えた。また、デザイナー・専門職向けに、ラテンアメリカにおけるデザインによる文化創造を「デザインの潮流」として伝え、いずれも大きな反響を得た。

一方、大阪商工会議所との連携事業として、「OSAKA STYLING EXPO 2013」に参画したほか、大阪市との連携事業として、「Kids Design」を取り上げ、こどもOS、スクラッチのワークショップ、デンマークとのフォーラムなどに取り組んだ。大阪府との連携事業、「スキルアップ育成塾」については、当財団の体制不足により実施に至らなかった。

情報発信機能強化として、当財団ホームページにおいて、大阪の各種団体からの依頼を受けて、デザイン情報を広範に紹介し、また、当財団自身の事業のPRのために、財団のfacebook を開設し、メールマガジンも活用して、タイムリーな情報発信に努めた。

「大阪デザイン振興プラザの運営」においては、ATC 内のデザインオフィス、ライブラリー等の施設受託管理とODPセミナーの毎月開催などの企画運営を行った。

24 年度末から継続して、大阪府の「デザイン・コンテンツビジネス実践事業」を受託し、訓練生10名をJV10社で受け入れ、OJTやOff-JOBにおいてデザイナー人材育成の効果を上げた。

そして、賛助員会費の減少等による歳入減に合わせて厳しい事業運営を進め、(公財)JKA から補助事業については無料の開催場所を新たに探すなど、事業費総額自体の圧縮に努めた。

財源的には、もと船場施設の売却代金資産を取り崩して事業費にあてたが、急激な円高を反映して、予想外の利息収入増があった。

一方、JDF会計内の外国債を安全な日本国債に買い替えることによって、1億円を超える含み損が顕在化した。資産評価額の改善があつて、その影響は軽減された。

25年度から公益目的支出計画に沿った取り崩しを開始し、事業費に充当したこともあつて、JDF会計において9,600万円ほど、一般会計において1,500万円ほどの資産減少となっている。

今回、公益目的財産額を時価で確定させることに合わせて、25年度決算を含む有価証券の評価額を取得価額(簿価)ではなく時価で算定することに改めた。

I. 総務に関する報告

1. 理事会・評議員会の開催

(1) 第85回理事会・第48回評議員会の開催

- ・ 日時 平成25年5月22日(水)午後1時35分～3時55分
- ・ 場所 ATC 大阪デザイン振興プラザ 多目的ルーム
- ・ 議案 ①平成24年度事業報告及び収支決算承認に関する件(理事会関係)
②平成25年度(公財)JKAの補助事業の実施に関する件(理事会関係)
③平成25年度補正予算案に関する件(理事会関係)
④理事の選任、移行後の最初の理事・監事の選任、移行後の最初の役員の選任に関する件(評議員会・理事会関係)
⑤(財)国際デザイン交流協会継承資産運営委員会委員の委嘱に関する件(理事会関係)

【役員の登記】

平成25年6月18日付、理事1名を大阪法務局へ登記した。

任期 平成25年6月1日～平成26年6月29日

(2) 第86回理事会・第49回評議員会の開催

- ・ 日時 平成26年3月26日(水)午後3時00分～5時22分
- ・ 場所 ATC 大阪デザイン振興プラザ 多目的ルーム
- ・ 議案 ①一般財団法人大阪デザインセンターの中期ビジョン(案)
(理事会・評議員会関係)
②一般財団法人大阪デザインセンターの平成26年度事業計画(案)
及び収支予算(案) (理事会関係)
③(財)国際デザイン交流協会継承資産運営委員会委員の委嘱
(理事会関係)
④平成25年度一般会計事業補正収支予算(案)(理事会関係)

2. (財)国際デザイン交流協会継承資産運営委員会の開催

(1) 平成25年度第1回委員会の開催

- ・ 日時 平成26年3月13日(木) 15:00～17:00
- ・ 場所 (財)大阪デザインセンター会議室
- ・ 協議事項 ① JDF 継承資産の取崩しについて
JDF 継承資産の取崩し、利息活用 年次計画(案)について
② 理事会に提出する「(財)JDF 継承資産を活用した平成25年度の事業計画及び収支予算(案)」の作成について

II. 事業に関する報告

1. 「大阪デザイン振興プラザ」事業

大阪デザイン振興プラザ(以下「プラザ」という。)が、大阪デザインビジネスの拠点としての役割を果たすため、次の事業を実施した。

(1) デザインビジネスプロモーションセンターの運営

中小企業のデザイン導入・活用に関するあらゆる相談や情報提供、さらには要望に応じたデザイン事務所の紹介や専門プロデューサーの個別カウンセリング行うなど、中小企業とデザイナーとのビジネスマッチングに努めた。特にデザイナー紹介においては、企業依頼内容に対するデザイナーとのピンポイントなコーディネート業務に一層注力し、成約率 63.2%とマッチングの精度を大幅に高めた(前年度は 44.7%)。また、ホームページでの情報発信に加えて、「大阪勧業展」や「LIVING&DESIGN」、大阪産業創造館「衛生技術展」に出展し、デザイン相談対応やマッチング事例展示など積極的な広報を行った。

① デザイン一般相談・利用

一般相談・利用件数 4,041 件 (前年度は 3,968)

(内訳)

デザイン一般に関すること	デザイナー紹介に関すること	プロデューサー派遣に関すること	データベースに関すること	その他	合計
2,298 (1,637)	1,143 (1,372)	281 (524)	276 (334)	43 (101)	4,041 (3,968)

② デザイナー・デザイン事務所の紹介 124 件 (前年度は 146)

依頼件数 124 社 (前年度は 146) 紹介件数 129 社 (前年度は 159)

(内訳)

プロダクトデザイン分野		スペースデザイン分野		コミュニケーションデザイン分野		合計
成約(開発中含む)	30	成約(開発中含む)	2	成約(開発中含む)	52	84
交渉中	10	交渉中	0	交渉中	7	17
不成約	13	不成約	4	不成約	15	32
合計 (前年度)	53 (64)	合計 (前年度)	6 (5)	合計 (前年度)	74 (90)	133 (159)

※成約件数には、1 案件(1 企業)と複数デザイン事務所とのマッチングもカウント

③ 専門プロデューサーによる個別相談カウンセリング

カウンセリング件数 41 件 (前年度は 94)

※今年度から大阪市委託事業でなくなったため、通常内容の個別相談カウンセリングはデザインに精通した ODC 職員(コーディネーター)が別途対応したので上記の数字には含まない。

(内訳)

プロダクトデザイン分野	スペースデザイン分野	コミュニケーションデザイン分野
15 (37)	0 (9)	26 (48)

④ 外部展示会への出展

- ・大阪産業創造館 衛生技術展(出展)

平成 25 年 7 月 18 日開催 来場者数 731 人 面談件数 9 件

- ・大阪勧業展(出展)

平成 25 年 10 月 23 日・24 日(2 日間)開催 来場者数 7,978 人 面談件数 28 件

- ・LIVING&DESIGN(出展)

平成 25 年 11 月 27 日・28 日・29 日(3 日間)開催 来場者数 6,771 人 面談件数 30 件

⑤ 広報活動

中小企業に対して、デザインビジネスプロモーション事業を広くPRするため、大阪デザインセンター主催シンポジウムをはじめ、大阪デザイン振興プラザや大阪産業創造館、デザイン団体

イベント等でのチラシやマッチング事例集の配付を行った。またホームページでも積極的にマッチング事例を紹介して情報発信を行った(case study 掲載事例 累計 103 件)。

(2) デザイン工房等の運営 (ATC<アジア太平洋トレードセンター株式会社>からの受託事業)

様々な分野で活躍する新進デザイナー、クリエイターのインキュベート(育成)を目的に設置されたデザイン工房をはじめ、デザインギャラリー、ショーケース、デザインライブラリー、多目的ルーム、ワークルーム、交流サロン、会議室などの運営・管理や工房入所者の作品展を行い、デザイナーの育成と情報発信などに努めた。

① インキュベーションオフィス入所事務所数 8事務所 (前年度は10)

② デザイナーオフィス入所事務所数 27事務所 (前年度は27)

③ 第18回デザイン工房入所者作品展

インキュベーションオフィス入所者の活動・成果発表の場として開催した。

・テーマ 「ODP展—デザイン見本市—」

・期間 平成26年3月14日～16日 (3日間)

・会場 大阪デザイン振興プラザ デザインギャラリー、ショーケース

・来場者 376人

④ 特別記念講演

・総合テーマ 「人間工学を活かした商品デザイン」～ドクターグリップに続け～
第1部テーマ 「なぜ、医師が開発したDr.Grip (ボールペン) が、筆記具の世界を変えたのか？」

・講師 ウド・エルゴ研究所 代表 広島大学医学部臨床教授 宇土 博氏
第2部テーマ 「商品開発におけるデザイナーの役割」

～シーズを市場価値に～

・講師 (有)インターデザイン研究所取締役 JIDA理事 上田 幸和氏

・日時 平成26年3月14日

・会場 サンセットホール

・参加者 117人

(3) イベント企画、ライブラリー等の運営

(ATC<アジア太平洋トレードセンター株式会社>からの受託事業)

「大阪デザイン振興プラザ」が主催するイベント企画・実施のサポートをはじめ、デザインギャラリー、ライブラリー等の管理を一元的に行い、デザイン情報発信拠点としての役割を果たした。

② ODP報告会 ・開催回数 12回 (前年度は10)

③ 主なイベント開催状況 ・展示会 16回 (前年度は17)
セミナー 16回 (前年度は23)

《内訳》

テ ー マ	開 催 期 日	区 分	参加者
ODPセミナー第1回デザイナーのための独立サポートセミナー	平成 25 年 4 月 27 日	セミナー	40
ODPセミナー第2回デザイナーのための独立サポートセミナー	平成 25 年 5 月 29 日	セミナー	52
第 45 回毎日・DAS 学生デザイン賞金の卵入賞・入選作品展	平成 25 年 5 月 30 日 ～6 月 2 日	展示会	211
ODPセミナー第3回デザイナーのための独立サポートセミナー	平成 25 年 6 月 8 日	セミナー	45
ODPセミナー①デザイナーの為の「勝ち取るプレゼンスキル」	平成 25 年 7 月 12 日	セミナー	27
廃材がおもしろいリユース展	平成 25 年 8 月 1 日 ～11 日	展示会	526
ODPセミナー②市場創出ビジネスをデザインする時代が来た！」	平成 25 年 8 月 23 日	セミナー	29
段ボールミュージアム展	平成 25 年 8 月 16 日～ 18 日	展示会	2528
ヴィンテージギャッベとキリム展	平成 25 年 9 月 7 日～ 16 日	展示会	88
ODPセミナー③「製品のデザインを守るためには？」	平成 25 年 9 月 13 日	セミナー	30
U-30建築展	平成 25 年 9 月 5 日 ～10 月 5 日	展示会	780
U-30建築展記念シンポジウム1	平成 25 年 9 月 7 日	セミナー	139
U-30建築展記念シンポジウム2	平成 25 年 9 月 28 日	セミナー	178
建築パース展2013大阪展	平成 25 年 9 月 13 日 ～17 日	展示会	367
北川一成展講演会	平成 25 年 10 月 11 日	セミナー	181
北川一成展	平成 25 年 10 月 11 日 ～20 日	展示会	469

モデラーズエキスポ	平成 25 年 11 月 2 日 ～4 日	展示会	3600
咲洲子どもフェスタ(かいじゅう)	平成 25 年 11 月 2 日 ～4 日	展示会	2834
関西オープンソース	平成 25 年 11 月 8 日～ 9 日	展示会	1500
知恵マルシェ	平成 25 年 11 月 29 日	セミナー	108
品物マルシェ	平成 25 年 11 月 30 日 ～12 月 1 日	展示会	2108
ODP セミナー④白色申告でみんなこ んなにソンをしている。	平成 25 年 12 月 13 日	セミナー	19
紙技展2014	平成 26 年 1 月 5 日～ 13 日	展示会	204
ODPセミナー⑤北欧テイストのデザ インやブランディング	平成 26 年 1 月 30 日	セミナー	74
DAS 高校生デザイン賞	平成 26 年 1 月 30 日、 ～2 月 3 日	展示会	147
ヴィンテージギャッベとキリム展	平成 26 年 1 月 25 日 ～2 月 2 日	展示会	18
バトルロイヤル	平成 26 年 2 月 21 日	セミナー	90
デザテン3	平成 26 年 2 月 22 日	セミナー	61
2014大阪工芸協会	平成 26 年 2 月 15 日 ～25 日	展示会	845
第18回ODP展	平成 26 年 3 月 14 日 ～16 日	展示会	376
第18回ODP展記念講演会	平成 26 年 3 月 14 日	セミナー	117
ソーシャルデザインカンファレンス	平成 26 年 3 月 20 日	セミナー	106

主な視察・見学状況 来館件数 8 件 (前年度は 10) 来館者総数 91 人 (前年度 93 人)

大阪市	平成 25 年 4 月 9 日	1 人
創造社デザイン専門学校	平成 25 年 7 月 30 日	15 人
フィリピン	平成 25 年 8 月 30 日	17 人
中小企業基盤機構	平成 25 年 9 月 3 日	1 人
Y K K ファスティングプロダクツ 販売 (株)	平成 25 年 9 月 24 日	2 人

関西インテリアプランナー協会	平成 25 年 10 月 18 日	10 人
大阪ドイツ文化センター	平成 25 年 11 月 6 日	3 人
大阪府立西野田工科高校	平成 25 年 11 月 26 日	42 人

2. 人材育成(研修・教育)事業

(1) デザインビジネス塾 第4期開講 ((公財)JKA 補助事業) (JDF 特別会計事業)

デザインを通して、問題の発見・課題の解決が図れる人材、新しいビジネスを創造できる人材を毎年 20 名、5 年間で 100 名を目標に育成するため、4 つの分野で活躍する大阪の著名デザイナーを塾長に委嘱し、デザインビジネス塾—co-design—の4年目を実施した。

27 名の応募を得て、入塾式は 6 月 25 日の坂下総代塾長の問題提議から開始した。前回の淀屋橋 odona の「アイスポット」から、「うめきた」グランフロント大阪のナレッジキャピタル内の大阪ガス(株)都市魅力研究室を会場としてお借りした。行政関係者、第 1 期、2 期、3 期修了生、塾生の派遣元企業も随時、傍聴した。

2 回目の記念講演では、日本デザインセンターの原研哉氏を招き、これまでの活動内容を「デザインの力」のテーマのもとにご紹介いただき、一般にも公開しての講義に 234 名の参加を得た。

そのあとは、4 人の塾長講義を順次行い、講義の翌週はその塾長の講義内容について、塾生がディスカッションを行うという形で 4 回繰り返した。

今年は塾長ワークショップの日数は 8 回から 6 回に減らしたが、期間を 9 月から 1 月の実質 4 か月をかけ、4 班に分かれて、を行った。

11 月 12 日に中間発表を行い、1 月 18 日には 4 時間近くに及ぶ成果発表会が実施され、半年間に亘る長丁場のデザインビジネス塾を終了し、23 名に修了証書を授与するとともに、ODC の人材BANKに登録された。

- ・ 開催期間 平成 25 年 6 月 25 日(火)～2 月 18 日(土) 全 20 日間
- ・ 会場 「うめきた」大阪ガス(株)都市魅力研究室
(成果発表会は ATC 多目的ルーム)
- ・ 修了生 23名(受講者 27 名)

総代塾長 坂下 清氏 ODC 前理事長

講義テーマ「求められる『design』とは～デザインの価値～」

塾頭 越田 英喜氏 ODC 理事長

進行コーディネーター

塾長 山納 洋氏 プロデューサー

講義テーマ「私的プロデュース論」

間宮 吉彦氏 空間デザイナー

講義テーマ「時代のムード、スタイル、場の雰囲気創造」
羽場 一郎氏 プロダクトデザイナー
講義テーマ「スマートイノベーションの創造」
吉田 順年氏 クリエイティブディレクター
講義テーマ「コミュニケーションデザインの「次」は？」

【各塾の成果発表のテーマ】

吉田塾 デザインの手法を応用して社会問題を解決させる
羽場塾 高齢者の元気社会を目指すデザイン
山納塾 教育番組とデザイン
間宮塾 KiFSL 募金への意識を変えていく

(2) デザインマネジメント研究会・フォーラムの開催 ((公財)JKA 補助事業) (もと運用基金事業)

デザインマネジメントに対する理解を深め、デザインを戦略的に活用する総合的なマネジメント手法について学び、デザイン経営の実践を図る人材を育成することを目的に「デザインマネジメント研究会」を実施した。(過去、平成16年度、平成18年度、平成21～24年度にも実施してきた。)

研究会は5名の塾生による自己紹介と各自の研究課題についてのプレゼンテーションを皮切りに、坂下塾長の「デザインマネジメント入門」と題しての「日本におけるデザインマネジメントの展開について」の講義、特別講義 1 として、リーズデザイン研究所 主宰・京都工芸繊維大学 名誉教授 山内陸平 氏 による「近鉄特急しまかぜのデザイン戦略」、特別講義 2 として、ダイハツ工業株式会社 海外本部 デザイン担当理事 石崎弘文 氏 による「軽自動車技術を活かしたアジアカーの開発/海外商品のデザインマネジメント」の特別講義を受けた後、「自社におけるデザインマネジメント課題について」グループディスカッションを行った。

第6回研究会は、「デザインマネジメントフォーラム」と題した公開講座として11月14日(木)に実施し、昨年度の受講生3名(岩崎隆氏(株)ペーパーワールド)、中川正哉氏(ホーザン株式会社)、正木秀樹氏(株)コシダアート)をパネリストに迎えた。65名の傍聴者が熱心に聴き入る中、パネリストからは、デザインマネジメント研究会に参加して、企業理念を明示すること、組織自身をデザインすること等の重要性を認識し、一年間の自社での具体的なプロセスや実践事例を発表し、デザインによる企業価値向上の取組の認識を深めた。

第7回は、坂下塾長による「Good Design Management 実現のために」と題しての講義をもとにディスカッションを展開し、最終日には、塾生による成果発表のプレゼンテーションと、修

了証書の授与を実施し、25年度のデザインマネジメント研究会を終了した。

- ・ 開催期間 平成25年10月10日(木)～11月28日(木)
- ・ 会場 大阪産業創造館 会議室
- ・ 受講者 5名
- ・ 聴講生 9名

(3) 学生のためのデザイン就職支援事業の実施 ((公財)JKA 補助事業) (もと運用基金事業)

平成14年度から大阪デザイン振興プラザ・デザイン工房会等の協力を得てインターンシップ支援事業に取り組み、平成19年度からは(財)JKAの補助事業として、「中小機械工業の付加価値向上に資するデザイン人材育成」の観点で実施してきた。

今回の実施にあたり、受入事務所の募集については、大阪デザイン振興プラザ・デザイン工房会と、プロダクト系を中心に府下のデザイン事務所に呼びかけた結果、28社からの応募があった。また、学生募集対象校は、デザイン学科を有する専門学校、短期大学、大学、49校に募集要項を配布し、募集に当っては、昨年度同様、本人の意向を生かすため、第3希望まで聴取した。応募者は、昨年度に落ち込んだが今年度は117名(17校)と従前の水準に戻った(H24は91名(15校))。

実習生の選考に際しては、実行委員会でプロダクト系を重視しつつ、希望者の多い受入デザイン事務所を優先して選定し、応募者の応募動機や熱意などを勘案し、慎重に19名を選考した。

実習期間については、昨年度3日短縮の11日間で実施し、JKAの補助金査定も11日間だったが、「期間が短い」という声があり、教育効果の点で12日間で実施した。実習終了後、インターンシップで得た内容等について感想文の形で提出を求めた。また、受入事務所についても、実習生の成長を評価する目的で、デザインスキル等について報告を頂いた。

そして、インターンシップ終了後、実習生と受入事務所の方々に集まっていただき、成果等を語り合う「座談会」も9月27日に開催した。本事業に対する実習生の評価は大変高い。

- ・ 実施期間 平成25年7月10日(水)～9月25日(木)のうち12日間
- ・ 実施場所 大阪デザイン振興プラザ・デザイン工房内デザイン事務所
及び大阪市内・近郊のデザイン事務所
- ・ 受入事務所 19社
- ・ 実習生 19名(大学院0名、大学10名、デザイン専門学校9名
男子6名、女子13名)

(4) デザイン・コンテンツビジネス実践事業 (大阪府からの受託事業)

厳しい雇用・失業情勢を受けてデザイン系の求職者10名の雇用機会を創出するために、大阪府が実施する緊急雇用創出基金事業「デザイン・コンテンツビジネス実践事業」をODC共同企業体(全10社)として前年度3月に受託し、10名を「地域人材訓練生」として雇用した。

訓練生は前年度3月からの約11ヶ月、デザイン企画を主とした各職場内でのOJTと職場を離れての座学を中心としたOFF-JTを効果的に組み合わせ、「クリエイティブ×コミュニケーション」力のスキルアップをめざした。また「成果発表プレゼン大会」を開催し、訓練生が実践事業で学んだスキルを人材に関心のある企業30社にアピールできる機会を提供し、就職目標を目指す取組みを行なった。

- ・ 期間 平成25年4月1日～平成26年2月28日 約10ヶ月間
(成果発表プレゼン大会 平成26年2月21日 大阪デザイン振興プラザ)
 - ・ 地域人材訓練生 10名(内2名は中途退職)
 - ・ ODC-JV事業所10社(OJT担当者 10名、統括員 1名)
- ※訓練生の進路 正社員2名、創業1名、契約社員3名、創業準備1名、就活中1名

(5) 産学連携デザイナー育成プロジェクト2013Ⅱ

ATCとの連携により、デザイン専門学校生・大学生とものづくり中小企業の出会いの機会を提供して、学生には生産現場でのデザイン開発体験を、企業には若い人の斬新なアイデアの導入を促す。

企業9社と、学生50名の応募があり、グループに分かれて、企画、提案、試作活動を行い、最終デザイン提案を行ってもらった。企業の参加費は3万円。

参加企業募集～h25.8.15 学生募集 h25.9.1～9.28 マッチング会 10.19 学生の企業訪問 10月下旬 プレゼン① 11.16 プレゼン② 11.30
最終プレゼン 12.14

3. 情報の発信・調査事業

(1) デザイン情報の発信、ホームページの充実

経営資源としてのデザインの重要性を広くPRするとともに中小企業におけるデザイン活用促進の一助とするため、企業経営におけるデザイン開発事例、優れたデザイン事務所や業界団体の取組みなどを紹介し、さらには学識経験者や専門性の高いデザイナーによるデザイン諸問題への提言など、ホームページなどを活用してデザイン情報提供を幅広く発信した。

特に、当財団のホームページが、関西のデザイン界の情報交流の出会いの場になれるようにヘッドラインに、「KANSAI DESIGN INFO.」の見出しを設置して、デザインコンペ、デザインセミナー、デザインイベント、人材募集など、関西の団体、企業のデザイン情報を幅広く紹介した。(h24年度42件)

さらに、平成25年1月からはfacebook を開設して、主催行事を中心に、デザイン関連情報を迅速に発信している。

また当センター賛助会員情報や「大阪の産業デザインの変遷 第二部〔製品デザイン〕」のデータもコンテンツとしてアップする等、閲覧数の向上に努めた。

(2) OSAKA STYLING EXPO 2013 への参画 (JDF 特別会計事業) 【大商との連携事業】

大阪・関西の中小企業やプロダクトデザイナー等から公募した中から、審査員が選定・編集した優れたデザインのリビング用品の展示・販売イベントを実施した。

また、今年度から、ファッション部門にも参画することになった。

・ 名 称 OSAKA STYLING EXPO 2013 LIVING 部門

・ 募集テーマ “OSAKA STYLING” ～OSAKAN VALUE～

大阪人の価値観に調和した、優れたデザインや新しいライフスタイルの提案で毎日に生活を彩るプロダクトを募集した。

・ 開催日時 2013年11月6日(水)～12日(火) 10:00～20:00

・ 場 所 高島屋大阪店 7F催会場(大阪府中央区難波 5-1-5)

・ 来場者数 約1万人

・ 参加費 無料

・ 参加企業 応募73社、出展25社

アトリエ May、イデオ(有)、(株)ルセット、(株)f-pzl(エフパズル)、(株)京谷、コマ(株)、SASAWASHI(株)、サンワード(株)、(株)ジャンクション、松尾捺染(株)、(有)セメントプロデュースデザイン、(株)タイタン・アート、匠(有)、(株)武市、dounatu、(株)ナダヤ、ニチレイマグネット(株)、フラワーコスモス、(株)ブリコラージュ、(株)ペーパーワールド、(株)CHICHIARO、MASAKAZU HORI DESIGN、(株)モート商品デザイン、家具工房クラフト、〈特別出展〉(株)オプスデザイン

・ 審査員

植木 啓子 (大阪市経済戦略局 大阪新美術館建設準備室 主任学芸員)

野下 裕永 (株)高島屋 販売6部部長(リビング・サービス営業)

・ 名 称 OSAKA STYLING EXPO 2013 FASHION 部門

・ 開催日時 2013年11月8日(水)14:0019:00～9日(火) 11:00～20:00

・ 場 所 グランフロント大阪 ナレッジキャピタルなど

・ 来場者数 4,360人

・ 内 容 ①人気投票

②ファッションイベント(22ブランドのファッションショー、
30作品の学生コンテストほか)

③特別セミナー

(3) ODC キッズデザイン事業 (JDF 特別会計事業) 【大阪市との連携事業】

「Kids design the world!! こどもから学ぶ・おとなが変わる」

こども視点・こどもゴコロ、でものごとを見つめ直してみると、たくさんの気付きが生まれ、たくさんの気付きは、たくさんの工夫の原動力となり、こどもたちが安心して暮らせる環境をつくることことができる。その環境はこどもたちだけでなく、全ての人たちが快適に暮らせる環境にも通じる。

日時：2013年11月2日(土)～11月17日(日)

場所：大阪南港ATC ITM 棟2階特設会場

展示：展示商品数49点 (第7回31点 第6回以前の大阪地区 18点)

参加数：10/28(月) こどもOS 22名

11/2(日) フォーラム “キッズデザイン” with デンマーク 55名

11/3(土祝) スクラッチワークショップ 12名

11/2(土)～17(日) 2F 特設会場来場者数 10,823名

(うちキッズデザイン賞「受賞作品巡回展」1,600名)

◆デザイン思考が身につく こども OS ワークショップ

大人になると忘れてしまいがちな人間の基本行動パターンや、こどもたち特有の自由で豊かな感受性や想像力、直視力から引き出される思考や行動、感性、デザイン創造について、こども OS に学びのづくりの過程で必要な問題や発想の糸口を学び、市場への展開を探った。

2013年10月28日(月) 11:00～17:00

大阪市住之江区南港北 ATCビル 9F セミナールーム

指導 同志社女子大学の上田信行教授、大阪府産業デザインセンターの川本誓文研究員
共通テーマ「プレイフル・マシーン」

◆フォーラム “キッズデザイン” with デンマーク

2013年11月2日(土) 14:00～17:00

大阪市住之江区南港北 ATCビル 2F 特設会場

デンマーク大使館と大阪市経済戦略局は、2012年、デザイン交流協定を締結した。

今、消費者の感性に訴えかけられるものづくりが求められている。

北欧諸国は、厳しい自然の中でも質の高い暮らしをし、良いものをきちんと評価して、長く使い続けるという大自然に溶け込んだ生活を送っている。そして、一人一人が社会を構成し、助け合う連帯感の中で、次の時代を担う子供たちへの教育でも大変大きな成果を上げている。

両国を代表するデザイナーたちの対談によって、お互いのデザインの同じところ、違うところを解き明かして、新たなモノづくりに資する。

基調講演 Vinay Venkatraman 氏、講演 ムラタ チアキ氏、講演 須藤みゆき氏

(LEGO education 日本代表) 進行は日経 BP 社 勝尾岳彦氏

◆子ども向けプログラムソフト スクラッチワークショップ

2013年11月3日(日) 12:00～17:00

大阪市住之江区南港北 ATCビル 2F 特設会場

子ども向けのプログラムソフト Scratch(スクラッチ)を活用し、動画を作成する体験学習をしながら、デジタルネイティブ世代と呼ばれる現代のこどもたちに創作的な活動を体験してもらい、コンテンツを消費するだけでなく、創造的、協働的、論理的思考力を養ってもらうことが目的。

自分が発想したことをITを使って表現できるという制作過程を経験してもらった。
講師 プログラマー阿部和広先生、同志社女子大学上田信行教授ほか

◆「キッズデザイン賞」受賞作品巡回展

平成 25 年 11 月 2 日(土)～17 日(日)11:00～17:00 ATC 2F 特設会場

平成 25 年度にキッズデザイン協議会が表彰した、「キッズデザイン賞」の受賞作品(の一部)の巡回展示である。

乳幼児用品や玩具などのこども用の製品・空間・サービス、あらゆる年齢層が使うもので、且つこどもへの配慮、こども目線を持った良質な製品・空間・サービス・プログラム・調査活動など、を一堂に展示することで、キッズデザインに対する周知を広めた。

◆キッズプレイフルランド

平成 25 年 11 月 2(土)3(日)4(祝月)、9(土)10(日)、16(土)17 日(日)11:00～17:00 ATC 2F 特設会場

こどもたちが遊ぶ場所を提供し、考える力を育む点に優れた玩具、遊具を体験展示した。

(4) 大阪デザインセンター中期ビジョン構想委員会事業

財団法人大阪デザインセンターは、公益法人移行諸法の規定に従い、平成 26 年 4 月 1 日付をもって、一般財団法人に移行したが、これまでの 50 年以上の活動の歴史を資産として受け継ぎ、公益的視点を失わずに、一般財団法人としての独立採算性を図っていかなければならない。

今後の財団の目標をどこに定めるのかについては、これまでの財団内部の検討委員会や、デザイン団体代表者懇談会での意見、外部のデザイン戦略の提言などを踏まえて、25 年度は財団内部での役員会を 8 回開催して、事業の柱の検討を進めてきた。

その結果、

- I デザインの創造性を高め、人々の暮らしを多面的に豊かにする。
 - II デザインビジネスへの積極的コミットメント
 - III デザイナー人材の登録、評価、活用、育成のスパイラル向上システム
- を大きな柱とする、「一般財団法人 大阪デザインセンターの中期ビジョン」(案)を作成し、平成 26 年 3 月 26 日の理事会・評議員会の承認を得た。

今後は、その内容の実現に取り組んでいく。

(5) シンポジウム「デザインの価値」の開催

((公財)JKA 補助事業) (JDF 特別会計事業)

デザインとは、単に完成された姿、形の素晴らしさを競うのではなく、その目的、用途、制約等種々の要請を総合的に解決する「ソリューション」である。

デザインを効果的に活用して、個々の販売を伸ばし、ブランドを確立し、企業価値そのものを高められる。(デザインマネジメント)

このようなデザインの意義、有用性を一般市民、企業人に理解してもらうために、市民に

一番身近なデザインである、食品に関するパッケージデザインを素材にとり、その姿、形に込められた企業の意図、戦略を解き明かした。

また、定番商品の基本デザインは踏襲しつつ、時代に応じてヴァリエーションを付ける、ブランド戦略、企業イメージアップの向上についても伺った。

講演者・パネラーは、日清食品ホールディングス株式会社 デザイン統括部 小泉 賢司 課長と、サントリービジネスエキスパート株式会社 デザイン部スペシャリスト 牛島志津子様、講演者・コーディネーターは、(株)アイ工房 代表取締役 池田 毅氏にお願いした。

- ・ 名 称 シンポジウム「デザインの価値」デザインによるブランド戦略
- ・ 開催日時 平成 25 年 9 月 28 日(土) 午後 1 時 30 分から 4 時 30 分まで、
- ・ 場 所 大阪市立中央図書館
- ・ 参加者 176名
- ・ 参加費 無料

(6) ユーザーと共に考えるデザイン展 (もと運用基金事業)

遊ぶことから発見し、創造する力、考える力を育んでいくための参加・体験型デザインイベントを夏休みに開催した。

段ボールの自動車や船、巨大な迷路や滑り台、パズルなどを設置して、くぐって、のぼって、すべって、押したり、まわしたり、子どもの目線に立ってデザインされた、遊びとまなびのダンボール空間を楽しんでもらった。

1. 実施時期 平成 25 年 8 月 16 日(水)~18 日(土)の 3 日間
2. 実施場所 ATC・ITM棟 10 階 サンセットホール
3. タイトル ”紙で感じる遊びとまなび“ ダンボールミュージアム
4. 参加費 無料(ワークショップは有料)
5. 参加者 2,528 人

(7) SOCIAL DESIGN CONFERENCE 2014 への参画

サステナブルな社会創生を目指して、今、私たちが取るべき行動指針を語り合うソーシャルデザインカンファレンス。

3年目の今回は、ソーシャルデザインの成功例として、瀬戸内国際芸術祭 2013・小豆島事例にテーマを絞り、トークショーを行った。

2000 万円の予算で 10 億円の経済効果を生み出し、アートや芸術で地域創生を成し遂げた事例をプロデューサーやアーティストを招いて紹介した。

当センターは実行委員会に参加した。

- ・ 名 称 ソーシャルデザインカンファレンス A+A)
- ・ 統一テーマ 「リアルタイムプロジェクトが生むダイナミズム」
- ・ 開催日時 平成 26 年 3 月 20 日(木) 13 時~17 時 30 分
- ・ 場 所 ATC デザイン振興プラザ

- ・ 参加費 無料
- ・ モデレーター ムラタ チアキ他
- ・ 講演者・パネリスト 椿 昇、服部 滋樹、原田 祐馬、大西 麻貴、
花井 裕一郎、中村 政人、林 千晶、コメンテーター 塩田幸雄(小豆島町長)

(8) 大阪デザインサロンに協力 (大阪デザイン団体連合 主管)

大阪デザイン団体連合 USD-O がデザイン関係者の交流を図り、情報発信できる場を持つため、サロンの開催を各デザイン団体に呼びかけており、それに賛同する形で、協力支援を行った。

(9) デザイン事務所データベースの整備と運用管理

在阪を中心とするデザイン事務所データについて、業務内容・得意分野など関連情報を収集の上、ホームページにおいてアップすると共に、デザイン相談やデザイナー紹介などにおける利用者のニーズに応える案件にも活用した。また、登録デザイン事務所に対して、当センターの関わるデザインイベント・セミナー等の情報を提供した。

○登録デザイン事務所数

- ・ビジュアルデザイン分野 275 社 (前年度は 258)
- ・プロダクトデザイン分野 104 社 (前年度は 102)
- ・スペースデザイン分野 52 社 (前年度は 51)

4. 国際的なデザイン交流

国際デザイン交流協会の理念を受け継ぎ、国際的なデザイン交流を進めた。

(1) シンポジウム「デザイン活動は地域に文化を残す ―世界のデザインの潮流―」の開催

(公財)JKA 補助事業) (JDF 特別会計事業)

昨年度は、アメリカ合衆国の最新のデザイン事情を伝えたが、今回は、中南米における地域文化を残すデザイン活動を取り上げた。「デザイン活動は、文化資本である」

世界の急激な産業化、都市化の中で、「地方」の生活と文化は衰退しているが、地域の伝統的産業は今までは市場性を持っていない。

そこで、デザインので、マーケットを意識した、よいモノを作る動きが有効である。その結果、地域に雇用を生み、文化の多様性を守ることができ、地域再生を果たせる。同質な問題は世界各地で起こっている。

- ・ 開催日時 平成 26 年 1 月 22 日(金) 午後 2 時から 5 時まで、
- ・ 場 所 大阪市立中央図書館 5 階大会議室

- ・ 講演者・パネラー 鈴木美和子（大阪市立大学 創造都市研究科 客員研究員）
永田 宙郷（イクス㈱ / プランニング・ディレクター）
羽場 一郎（ ㈱アイデア代表取締役/プロダクトデザイナー）
- ・ 参加者 153名
- ・ 参加費 無料

(2) 国際交流

フォーラム ”キッズデザイン” with デンマーク（前出）に加えて、JICA のフィリピン実業家研修団が来訪され、デザインに関わる情報交換と、施設案内を行った。

5. 各種委員会の開催

(1) 事業評価委員会の開催

当財団では、(公財) JKA から補助金を得て4件の事業を実施したが、(公財) JKA では、「補助事業実施に関する事務手続要領」において、補助事業の透明性、効率性を確保するため、補助事業者の「事前評価」「事後評価」を求めている。事後評価に当たっては、補助事業者の内部評価だけではなく、評価の客観性を担保するため、外部有識者で構成する評価委員会の設置を平成22年度から求められた。

そのため、25年度も(公財) JKA の補助事業等を評価する(財)大阪デザインセンター事業評価委員会を設置し、3名の評価委員(竹川智子株式会社フラン代表取締役、羽原清明大阪デザイン団体連合監事、山内勉福井工業大学教授)を委嘱し、平成26年3月28日(月)午後3時から(財)大阪デザインセンター会議室で委員会を開催した。

委員会では、委員長に竹川智子氏を選出した後、評価の検討に入った。

①デザイン就職支援、②デザイン・ビジネス塾、③デザイン・マネジメント研究会、④デザイン・シンポジウムの開催 について事業概要や参加者アンケート、事後評価書等を説明した。

委員から、応募者からポートフォリオを出させるのを義務付けてはどうか。受け入れ事務所にも「事業全体に対する評価」を聞くべきだ。デザインへの就職率を事業評価基準にするのは厳しい。といった意見が出され、これらを反映して、(公財) JKA に「事後評価」を提出した。

(2) (財)国際デザイン交流協会継承資産運営委員会

国デ協の継承資産については、(財)国際デザイン交流協会継承資産運営委員会(構成:大阪府、大阪市、大阪商工会議所、近畿経済産業局の役職員の中からそれぞれ1名を理事会の同意を得て理事長が委嘱する。)で、引継がれた財産の管理や同財産をもって行う事業に関し、理事会に提出する収支予算、事業計画などについて審議を行うこととなっている。

運営委員会を平成26年3月13日(木)に開催し、理事会に提出する平成26年度の

事業計画と予算案などを集約した。

6. デザイン団体支援事業

大阪デザイン団体連合をはじめ、(公社)日本インダストリアルデザイナー協会関西ブロック、(公社)日本インテリアデザイナー協会西日本エリア、(一社)日本商環境デザイン協会関西支部、日本デザイン・ソサエティ、AP～N 熟年女性デザイナー協会からの委託を受け、各団体の事務局業務を推進し、各団体の支援に努めたが、日本デザイン・ソサエティは3月31日をもって、解散した。

7. その他事業

(1) 賛助会員の加入促進

センターの財政基盤の強化を図るため、市内デザイン事務所を中心に積極的な加入勧奨に努めたが、経済情勢の悪化により会員数は減少した。

賛助会員のメリットを明確化するように努め、HP 上で会員名簿を公開し、情報発信便宜、セミナー参加料の減額、などを講じた。

○ 賛助会員数 129 社 (前年度は 138)

(2) 商工経済団体との連携強化

大阪商工会議所、大阪府中小企業団体中央会、大阪府商工会連合会、大阪市工業会連合会及び大阪卸商連盟など商工経済団体との連携の下、諸事業の推進と PR に努めた。

(3) デザイン関連事業の後援状況

デザイン関連諸事業に対して、後援 10 件(前年度は 12)を行った。

(内訳)

開催日	名称	団体名	区分
平成25年5月18日	第1回K I P Aモニターメッセ	(一社)関西インテリアプランナー協会	後援
平成25年5月24日～26日	ツムテンカク2013	ツムテンカク実行委員会	後援
平成25年6月12日～14日	S I G N E X P O 2 0 1 3	近畿屋外広告美術組合連合会	後援
平成25年6月下旬～12月末	第10回”若者によるエコ・メッセージ“ポスターデザイン	地球環境関西フォーラム	後援

	公募		
平成25年11月6日 ～11日	カラーパーティー2013 ウエストPINK	カラーパーティーウエスト	後援
平成25年9月5日 ～10月5日	U-30 30歳以下の若 手建築家7組による建築 展・記念シンポジウムI・ II	特定営利法人アートアン ドアーキテクトフェスタ	後援
平成25年10月14 日～28日	「リビング&デザイン20 13」	(株) L&D	後援
平成26年2月15日 ～20日	2014大阪工芸展	(一社)大阪工芸協会	後援
平成26年2月15日	第2回KIPAモニターメ ッセ	(一社)関西インテリアプ ランナー協会	後援
平成26年2月13日 ～15日	Media Frontier2014 OIC	大阪情報コンピューター専 門学校	後援
平成26年3月8日	JIDセミナー	(公社) JID	後援